

大谷大学図書館所蔵

『中辺分別論』チベット撰述文献の試訳研究

——帰敬偈，論の綱要偈——

松 下 俊 英

はじめに

本論文は、大谷大学図書館所蔵のチベット蔵外文献に収められている『中辺分別論』のチベット人による註釈写本の試訳を提示するものである。

『中辺分別論』(*Madhyāntavibhāgabhāṣya*)は、マイトレーヤ(Maitreya, 弥勒)が偈頌をアサンガ(Asaṅga, 無著)に伝え、それにヴァスバンドウ(Vasubandhu, 世親)が註釈を施したものと伝えられる。そしてそれには、ステイラマティ(Sthiramati, 安慧)が復註をほどこした『中辺分別論釈疏』(*Madhyāntavibhāgaṭkā*)のサンスクリット写本が現存し、『中辺分別論』を理解するための重要な資料となっている。

本論文対象写本の作成者は不明であるが、そのステイラマティの註釈書に従って簡潔に解釈を与えており、ステイラマティ釈の要約だとみることができる。写本の書写年代は12世紀頃と考えられ、その頃のチベットにおいて『中辺分別論』がどのように受用され、解釈されていたのかを知る手がかりとなる。そしてそれを通して『中辺分別論』自体を読み解く一つの視座となれば幸いである。

当該写本について

大谷大学図書館には、北京版とナルタン版という二つのチベット大蔵経が所

蔵されている。そのうち、北京版は1955年から影印出版され、インド、チベット仏教研究に貢献をなしてきた。同図書館には、チベット大蔵経以外にもチベット人の撰述した文献が多数所蔵されており、これらの文献群は「チベット蔵外文献」と言われ、同図書館でしか現存を確認することのできない貴重な資料も含まれる。これらの蔵外文献の来歴については定かではないが、寺本婉雅が北京版などと共に将来した可能性や、能海寛が入蔵時に寺本宛に送付した可能性などがあげられる。

1960年代には、稲葉正就氏が中心となってこれらの資料を学界において活用できるように取り計らい、1973年に『大谷大学図書館所蔵西藏文献目録』が、1985年には同索引が出版された。当該目録は、チベット語とサンスクリットの表題、寸法、葉数、行数、北京版・デルゲ版に対応する文献がある場合はその番号が記されている。

当該目録によれば、大谷大学図書館にはチベット蔵外文献が4103点所蔵されている。本論文の対象写本は、No. 12827 *dBus dang mtha' rnam par 'byed pa'i 'grel pa* (『中辺分別論』の註釈)である。

当該写本の体裁は、全55葉、縦11cm、横63cmの大きさで、『中辺分別論』の偈をウチェン書体の朱字で書き、世親による註釈をウチェン書体の黒字で書き記している。各葉の行数は1葉目には3行、2葉目以降は4行で書写されている。この写本の特徴は『中辺分別論』が記されている行間に、ウメー書体で細かな註釈がほどこされている点にある。ウメー書体部分はチベット人による註釈と考えられ、その書体は、再添後字の“da”を付加した文字や、有足字の“ya”を付加した否定辞などが多数見られることから、ウメー書体の発展段階にある字体であることがわかる。このような書体は、敦煌出土チベット語文献にみられるそれに近く、また当該写本と同様、行間に註釈をほどこしているスタイルをもつ写本はタポ寺発見のチベット語文献の中にみられる。⁽¹⁾

さて、チベット人による『中辺分別論』の註釈は、同じく弥勒の五部論のうち『現観莊嚴論』などに対する註釈に比べ圧倒的に数が少なく、ゴク・ロデン・シェーラプ (rNgog blo ldan shes rab, 1059-1109, *dBus mtha'i don bsdus*)、ロントン

(Rong ston, 1367-1449, *dBus dang mtha' rnam par 'byed pa'i rnam par bshad pa mi pham dgongs rgyan*), ジュ・ミパム ('Ju mi pham, 1846-1912, *dBus dang mtha' rnam par 'byed pa'i bstan bcos kyi 'grel ba 'od zer phreng ba*), ケンポ・シェンガ (mKhan po gzhan dga', 1871-1927, *dBus dang mtha' rnam par 'byed pa'i mchan 'grel*) による4点のみが確認される。発展段階にあるような書体をもつ写本は、12世紀末までに遡るものと考えられ、ゴクと同時代か、少なくともロントン以前には書写された可能性があり、歴史的価値も高く、貴重な資料といえる。

凡 例

本論文の試訳範囲は、第1葉裏から第2葉表の途中まで(帰敬偈及び論の綱要偈)である。行間のウメー書体は、偈頌や世親釈の一部について註釈するコラムのような体裁である。したがって行数は記載せず、標題と番号を示すのみにとどめた。偈頌とヴァスバンドウ釈の引用文はボールド体で示した。

有足字の“ya”を付加した否定辞や、再添後字はそのまま翻字した。i母音記号(gi gu)はほとんどが反転記号を用いられていることから、煩を避けるため通常の“i”で示した。

[]内は補い、あるいは注記を示す。写本が不明瞭な場合も、[]を用いてその旨を指摘した。ステイラマティ釈に並行する部分は、それに対応するステイラマティ釈のチベット語訳と試訳を注記した。

『中辺分別論』チベット語註釈 試訳

0 表題

rgya gar skad du// mdhyan ta bi bham- ga brid ti//	インドの言葉で, Madhyantavibham- gavṛtti
bod skad du// dbus dang mtha' rnam par 'byed pa'i 'grel pa/	チベットの言葉で, 中と辺との分別 という註釈 ¹⁾
'jam dpal gzhon nur gyur pa la phyag 'tshal lo//	文殊師利王子に帰命す。

1 創作者について

bstan bcos 'di rtsa ba ni byams pas mdzad/
'grel pa ni thogs myed kyis bshad do/
'di'i ti ka ni sti ra ma tis byas so//

de la 'jig rten na yang mi ya rabs dag ni
las ci rtsom yang rung rang dad pa'i lha
la mchod nas las rtsom pa la 'jug pas/ ba
su ban 'dus kyang de dag mthun par
gzhan gyis shes par bya ba'i phyir
byams pa dang rang gi slob dpon thogs
myed la phyag 'tshal ba'i tshig 'di smos
so/ tshig bcad 'di smos te [/]

この論の偈頌はマイトレーヤによって造られた。註釈はアサンガによって語られた。これの *Tīkā* はステイラマティによってなされた。

その中、世間にあっても、聖人たちは、何か事業を始める時、自身が信仰する神性を尊敬して行為の開始に入るのだから、ヴァスバンドゥも彼ら（聖人たち）と同じく他の者によって知られるためにマイトレーヤと自身の師アサンガに帰依のこの言葉を言う。偈頌にそれが説かれている²⁾。

- 1) *vṛtti* と音写するテキストは当該写本のみである。MAVBh と MAVṬ の題名の音写とチベット語訳は以下の通り。

MAVBh: ma dhyānta bi bhāga ṭīka, dbus dang mtha' rnam par 'byed pa'i 'grel pa

MAVṬ: ma dhyanta bi bhaṃga ṭīkā, dbus dang mtha' rnam par 'byed pa'i 'grel bshad

ステイラマティ復註には「その中、作者によって説くべきことが示されているから経 (*sūtra*, *mdo*) に尊敬が生じる、というのはこの偈の論の作者は聖者マイトレーヤである。(中略) 語り手が正しく受け伝えていくことにより註釈 (*vṛtti*, *'grel pa*) に尊敬が生じる。また、この場合、語り手は軌範師アサンガである。彼より聞いて軌範師大徳ヴァスバンドゥはこの〔偈の〕註釈 (*bhāṣya*, *'grel pa*) を作成した」(注4 参照) と説かれることから、偈頌を *sūtra* (*mdo*)、アサンガが語った言説も含めた註釈を *vṛtti* (*'grel pa*) としているようである。

さらにステイラマティ釈において、“*bhāṣya*” の訳語として、*bshad pa* (D206a2, P39b2; D258b3, P101b8 など) が充てがわれることから、ステイラマティはヴァスバンドゥ釈を *bhāṣya* と表現していたこと、またチベット語訳では *bshad pa* と訳出されることがわかる。しかし、上に示したように、表題が一致していないことや、不特定の註釈を *'grel pa* と示すなど、翻訳の最初から正確に訳語が定まっていたわけではないことがうかがえる。以上のことから、ここでは *vṛtti* を「註釈」と訳出しておく。また『中辺分別論』の題名表記については加納和雄「仏典論疏の梵語題名表記にかんする覚書—中辺分別論疏および般若灯論を例として—」(『密教文化』no. 236,

2 帰依の利益

phyag 'tshal ba la phan yon ci yod ce
na/ byams pa lta bu yon tan dang ldan
pa dang/ drin la glan [read *drin la glan*]
pa'i phyir slob dpon la phyag 'tshal ba
dang/ bsod nams 'phel te brtsam pa la
bar chad dang bgegs kyis mi tshugs pas
tshags [read *tshegs*] chu ngus brtsam pa
mthar phyin pa'i phan yon yod pa'i
phyir ro/

gcig du [read *tu*] mdzad pa ste byams
pas gsungs par bstand pa [read *pas*] ni

帰依における利益は何か。マイト
レーヤの如く徳を持つこと、恩に報
いるために、師に帰依することと
諸々の福が増大することである。な
ぜなら〔その論書の著作を〕始める
時に、邪魔や障碍によって害される
ことがないので、わずかな努力で著
作が完成するという利益があるから
である³⁾。

一つには、作者つまりマイトレーヤ
がお説きになったことを示すことで、

2016, pp. 43-71) を参照。

2) MAVT P19b8-20a2, D189b2-4.

ya rabs dag ni phal cher bla ma dang/ dad pa'i lha la mchod nam las rnam la 'jug ste/ dbus
dang mtha' rnam par 'byed pa'i mdo bshad par 'dod pas/ bdag la yang 'di ni ya rabs kyis tshul
can no zhes shes par bya ba'i phyir/ de mdzad pa dang 'chad pa la mchod nas/ de'i don rnam
par dbye bar zhugs so zhes rab tu bstan pa'i phyir/ bstan beos 'di ni rab tu mdzad pa zhes
bya ba la sogs pa smos so/

勝れた人たちは大抵、師と信仰する神性に尊敬して事業の開始に入る。だから彼自身（ヴァスバンドゥ）も勝れた人たちによる方法にしたがい、『中と辺との分別という経』の註釈をなそうとするから、作者と語り手に尊敬して、それ（経）の意味分析に専念することを示すために「この論の作者」などと説くのである。

3) MAVT P20a2-3, D189b4-5.

de ltar byas na yon ta na ci zhiḡ thob ce na/ yon tan dang ldan pa dang/ phan 'dogs 'dogs pa
la mchod na bsod nams 'phel bar 'gyur ro// bsod nams 'phel na yang dag par rtson pa la bar
chad dang bgegs kyis mi tshugs par tshegs chu ngu [*tshogs chung ngu* D] rdzogs par 'gyur ro/
このようにして〔人は〕どのような功德が得られるか、という。功德を持ち、また
利益をなす人を供養するような彼らには福德が増大する。福德が増大するなら、事
業に着手することによって、障害を除去〔し、そのことに〕よって、さまたげがなくな
った人々をわずかな努力で〔目的に〕到達させる、といわれる。

dbang po rtul po gang zag gi rjes su
 'brang pa dag mdo la gus pa skye'o/
 'chad pa ste thogs myed kyis bshad par
 bstand pas ni dbang po rtul po dag 'grel
 pa la gus pa skye'o/ chos rjes su 'brang
 pa dbang po rnon pos bstan bcos kyi
 don bzang to/
 gzung 'dzin dang bral bar bstond pa rtogs
 pa'i sgo nas ni mdzad pa byams pa dang
 'chad pa thogs myed ni de kho na rtogs
 pas phyed ba yin gi/ don ci lta bu yin zhes
 dpyod cing lung las kyang 'byung ba
 yin 'grang ['brang ?] zhes pa'i rtog pa
 dang lung tsam gis phyed ba ni ma yin
 no bar mdzad pa dang 'chad pa la gus
 pa skye'o/ de bas na phan yon de lta bu
 yod pa'i phyir phyag 'tshal ba smos so//

人に追従する鈍根者たちには経に敬
 いが生じる。

話者つまりアサンガによって説示さ
 れたと示すことで、鈍根者たちは註
 釈に敬いが生じる。

法に従う者である利根〔者〕によっ
 て論のよき意味〔に敬いが生じる〕。

所取・能取と離れる教説を理解する
 観点から、作者マイトレーヤと話者
 アサンガが、真実を理解することで
 分析したものであるが⁴⁾、論理と聖教
 のみによって分析したのではない。

というように作者と話者に敬いが生
 じる。それ故、このような恩恵があ
 ることから帰依が説かれるのである⁴⁾。

4) MAVT P20a4-b2, D189b6-190a3.

de la mdzad pas bshad par bstan pas mdo la gus pa skye ste/ 'di ltar bstan bcos tshig le 'ur
 byas pa'i [byas pa ni P] mdzad pa [po ins. D] ni 'phags pa byams pa ste/ de yang skye ba
 gcig gis thogs pa'i phyir/ byang chub sems dpa'i mngon par shes pa dang gzungs dang so so
 yang dag par rig pa dang/ ting nge 'dzin dang/ dbang dang bzod pa dang/ rnam par thar pa
 thams cad kyis [kyi D] dam pa'i pha rol tu son pa/ byang chub sems dpa'i sa thams cad la
 sgrib pa yang ma lus par spangs pa'o//

'chad pas yang dag par byin pa'i sgo nas 'grel pa la gus pa skye bar 'gyur te/ 'di la 'chad pa ni
 slob dpon thogs med do// de las slob dpon btsun pa dbyig gnyen gyis gsan nas 'di'i 'grel pa
 mdzad de/ de gnyis kyang shes rab mchog dang ltan pas [dan pas D] ma nor bar rtogs pa
 dang/ bzung pa dang ston nus pas 'dir mdo'i don ma nor bar [ma nor ba D] bstan to zhes 'grel
 pa la gus pa skye ste/

de ltar gang dag gang zag tshad mar byed pa de dag ni/ mdo dang 'grel pa la gus pa skye'o//

3.0 帰敬偈 abc 句

bstan bcos 'di ni rab mdzad pa//
bde gshegs nyid skyes bdag sogs la//
'chad pa la yang mngon mchod nas/

善逝の身体から生まれたこの論の作
者と、われわれをはじめとする者に
伝えた話者と共に礼拝して、

(śāstrasyāsya pranetāram abhyarhya

sugatātmajam/

vaktāraṃ cāsmadādibhyo

帰敬偈 abc 句 MAVBh 17.3-4)

de la bstan bcos zhes bya ba'i rang bzhin
ni mying dang tshig dang yi ge'i tshogs
su snang ba'i rnam par rig pa'am rnam
par myi rtog pa'i ye shes thob par byed
pa mtshan nyid la stsogs par snang ba'i
rnam par rig pa mams ni bstan bcos so/

その中、論の本質は、名・句・文の
集まりとして現れた表象〔が論〕で
ある。あるいは、無分別智を得させ
る相などとして現れた表象が論であ
る。⁵⁾

gang yang chos la ston pa[*rton pa P*] de dag ni mdo dang 'grel pa'i don bzang po khong du
chud de/ nges pa skyes na 'di mdzad pa dang 'chad pa yang rtogs pas rab tu phyed ba yin gyi/
rtog ge dang lung tsam gyis rab tu phyed bar ni ma[*ma om. D*] zad do zhes mdzad pa dang/
'chad pa la gus pa skye'o//

その中、作者によって説くべきことが示されているから経に尊敬が生じる。というのはこの偈の論の作者は聖者マイトレーヤである。そして彼は一生補処だから菩薩のすべての神通と陀羅尼と無礙解と三昧と根と忍と解脱とにより究極の彼岸に到達しており、すべての菩薩地における障害を残りなく断じたものである。

語り手が正しく受け伝えていくことにより註釈に尊敬が生じる。また、この場合、語り手は軌範師アサンガである。彼（アサンガ）より聞いて軌範師大徳ヴァスバンドゥはこの〔偈の〕註釈を作成した。彼ら〔アサンガ、ヴァスバンドゥ〕両者は最上なる智慧を備えており、誤りなく精通し記憶し語ることにふさわしいから、ここ（論）に経の意味が誤りなく説かれているので、註釈に尊敬が生じる。

このように人に重きを置く者たちには、経と註釈と共に尊敬が生起する。また、法に準拠する者たちには経と註釈の善き意味について理解が〔生じる〕。また、確信が生じるならそれは作者と語り手に依っているのであって、単なる論理と聖教だけによって明らかになったのではないので、作者と語り手と共に尊敬が生じるのである。

de la ci'i phyir bstan bcos zhes bya zhe
 na/ des slob ma bcos pa'i phyir bstan
 bcos ste/'chos pa ni tshul khirms la stsogs
 pa'i phung po gsum bskyed pa'i phyir
 myi dge ba las bzlog ste dge ba'i ngang
 du 'chos pa'i phyir ro/
 'di ni zhes bya ba ni theg pa gsum gi sgo
 nas don dngos po bdun bsdu pa sgrib
 pa nram gnyis dang bral bar byed pa'i
 tshig le 'ur byas pa'i 'go mjug gi don
 sems la dran pa mngon du byas te 'di ni
 zhes bya'o/

その中、どうして論と言われるのか
 という。それによって弟子を教える
 から論である。教えることは、戒な
 どの三蘊（戒定慧）を生起させるこ
 とから、不善から離れ、善の有り方
 について教える〔からである⁶⁾〕。
 「この」とは、三乗に7つの事項
 (artha) が収められ、二障から離れ
 させる偈頌の最初と終わりの意味が
 心に留まり現前となる。それ故「こ
 の」と言われる⁷⁾。

5) MAVṬ P20b2-3, D190a3-4.

da ni bstan bcos kyi rang bzhin ci 'dra ba dang/ ci'i phyir bstan bcos shes [zhes D] bya ba 'di
 bshad par bya'o// ming dang tshig dang yi ge'i tshogs su snang ba'i mam par rig pa mams ni
 bstan bcos so//

今や、このことが説かれるべきである。〔すなわち〕論の体質とはどのようなもの
 か、また論とは何か。名・句・文の集まりにおける現れである表象が論である。

6) MAVṬ P20b4-5, D190a5-6.

slob ma 'chos pa'i phyir bstan bcos te/ [slob ma 'chos pa'i phyir bstan bcos te/ om. P] slob
 ma 'chos pa [chos pa P] ni tshul khirms dang/ ting nge 'dzin dang/ shes rab kyi khyad par
 bskyed pa'i phyir/ lus dang ngang dang yid tshogs par mi 'byung ba'i las las bzlog pa dang/
 tshogs par 'byung ba'i las la 'jug pa'o/

弟子を教えるから論である。というのは、弟子を教えることは、特定の戒・定・慧
 が生起するが故に、身・語・意の資糧が生起しないような行いを損減させ、資糧が
 生起する行いを展開させるからである。

7) MAVṬ P21a1-2, D190b2-3.

'di ni zhes bya ba ni theg pa gsum gyi sgo nas dngos po bdun du bsdu pa/ nyon mongs pa
 dang shes bya'i sgrib pa spong ba thob pa dang/ bstan bcos dbus dang mtha' nram par 'byed
 pa'i tshig le'ur byas pa [pa'i tshig le'ur byas om. P] 'di sems la gnas pa'i phyir dang 'di zhes
 mngon sum du bstan to/

「この」とは三乗によって七つの事項を納め取り、煩惱〔障〕・所知障の断を得さ

rab mdzad pa ni byed pa po ste byams
pa nyid do/

byams pa de sgrib pa nram gnyis dang
bral ba myi gnas pa'i mya ngan las 'das
par gshegs pa ste de bzhin nyid rtogs pa
las skyes pa'i phyir nyid skyes so/

「作者」とは造者、すなわちマイト
レーヤである⁸⁾。

そのマイトレーヤは、二障と離れた
不住処涅槃に達しており、真如を覚
知することから生じるから「身体か
ら生まれた」である⁹⁾。

せる『中辺分別論』の偈が〔ヴァスバンドウの〕心中に定まっているから、「こ
の」と明瞭に教示したのである。

8) MAVṬ P20a4-5, D189b6.

de la mdzad pas bshad par bstan pas mdo la gus pa skye ste/ 'di ltar bstan bcos tshig le 'ur
byas pa'i [byas pa ni P] mdzad pa [po ins. D] ni 'phags pa byams pa ste/
その中、作者によって説くべきことが示されているから経に尊敬が生じる。という
のはこの偈の論の作者は聖者マイトレーヤである。

9) MAVṬ P21a4-7, D190b4-7.

bde gshegs nyid skyes zhes bya ba ni/ bag chags dang bcas pa'i nyan mongs pa'i sgrib pa
dang/ shes bya'i sgrib pa las mi gnas pa'i mya ngan las 'das par shin du bshegs pas bde bar
gshegs pa'o// de yang bag chags kyi sgrib pa thams cad spangs pa/ chos thams cad nram pa
thams cad du thugs su chud pa'i rang gi ngo bo 'byor pa thams cad kyi gnas su gyur pa/ yid
bzhin gyi nor bu rin po che ltar bsam gyis mi khyab pa'i mthu mnga' ste/ sems can thams
cad kyi don thams cad lhun gyis grub par mdzad par spyod pa/ nram par mi rtog pa'i [rtogs
pa'i P] ye shes kyi khyad par gyi bdag nyid ni bde bar gzhegs pa'o// de'i bdag nyid ni nram
par dag pa'i de bzhin nyid de/ de las nram par mi rtog pa'i ye zhes rab tu byung ba'i phyir de
[te P] las sam/ der skyes pas na bde gshegs nyid skyes so//

「善逝の身体から生まれた」とは煩惱障と〔その〕習気と所知障から無住処涅槃に
善く逝くので善逝である。また彼はすべての習気という障害を断じており、あらゆる
点で一切法を理解することを本質としており、あらゆる力強さの所依となるもので、
如意宝珠のように、不可思議力を保持し、努力せずに一切の有情のすべての利益を
完成することができ、優れた無分別智を本性とする善逝である。彼（善逝）の本
性は清浄なる真如である。無分別智がそれ（善逝）から生じたものだから、そこ
（善逝）からまたはそこ（善逝）に生まれた者が「善逝の身体から生まれた」であ
る。

de la yang mchod ba su ba 'du [read
'*dus*, *vasubandhu*] bdag [read *mnga'*
bdag?] dang phyi rabs kyi myi kun la
'chad pa thogs myed la yang mchod de/
mchod pa ni lus dang ngag gi sgo nas
brjod pa'o/

la yang zhes bya ba ni 'chad pa mchod
pa'i nang du bsdu ba'am tshig bshad
bskang ba'am mdzad pa dang 'chad pa
nye che [read *tshé*] mchod pa ma yin gi
lhag pa ste sangs rgyas dang byang
chub sems dpa' gang yang rung ba la
yang phyag 'tshal ba'i don no/

3.1 帰敬偈 d 句

don rnams dpye phyir 'bad par bya /

don bdun po de dper [read *dper na*]
sbas ste myi snang ba phyung ba dang

「彼にも礼拝する」とは、ヴァスバ
ンドウが、王（マイトレーヤ）と、
過去と未来の代々の人々すべてに対
して語るアサンガにも礼拝する〔と
いう意味である〕。礼拝は身体と言
葉であらわされる。

「と」とは、語り手を礼拝すること
が含まれる。あるいは説かれた句を
満たすもの、あるいは作者と語り手
だけ礼拝するのではなく、残りのも
の、つまり仏・菩薩のいずれかにも
帰依するという意味がある¹⁰⁾。

事項を明らかにすることに、私は努
め励もう。

(yatisye 'rthavivecane//

帰敬偈 d 句 MAVBh 17.4)

その7つの事項は、たとえば、隠さ
れたもの、つまり現れていないもの

10) MAVT P21b6, D191a5.

yang zhes bya ba ni bstu ba'am/ rtsa ba bskangs pa'am/ lhag pa'i tshig ste/ mdzad pa dang
'chad pa nyi tshe la ma yin gyi sangs rgyas dang byang chub sems dba' gang yang rung ba
dag la mchod par bya'o [mchod pa bya ba'o P]/

「と」とは、接続の場合や、音節の充満の場合、あるいは追加の場合に〔用いられ
る〕。〔すなわち〕単に語り手と作者とに帰依するだけでなく、他の諸仏・諸菩薩に
も帰依するのである。

'dra bar don bdun po myi snang ba las
mying gis so sor phye ste smos pas ni
don dbye ba'o/

yang na dper na mdud pa 'grol ba dang
'dra ba don bdun po'i mtshan nyid so
sor bshad pa ni don dgrol ba'i phyir ro/

yang na dper na ljings pa'i 'tshams phye
ba dang 'dra bar don bdun po so so la
grangs su yod pa bstand pa ni so sor
dbye ba'i phyir zhes bya ste de'i
rgya'am [read rgyu'i] phyir 'chad de/

de ltar bshad pa la phan yon ci yod ce
na de'i sgo nas sgrib pa rnam gnyis
dang bral ba'i ye shes thob pa'am don
bdun po rtogs pas rtog pa spong ba'i
phyir ro/

が現れるように、7つの事項が現れ
ていない状態から名称によって各々
分けられ、言明されることにより、
項目に分ける〔ということである¹¹⁾〕。
あるいはまた、例えば、結縛から解
放されるように、7つの事項の相を
別々に説くのは意味を解釈するため
である。

あるいはまた、例えば、もつれた争
いをわかるように、7つの事項がそ
れぞれ数として存在すると示された
ことは、別々にわかるというべきで
あって、その因のために解説する
のである。

このように説かれたことにおける利
益はあるのかというなら、それによ
って2種の障害と離れた智を得る、
あるいは、7つの事項を覚知するこ
とで分別を捨てるためである。

11) MAVT P21b7-22a1, D191a6-7.

bstan bcos mdzad pa dang 'chad pa la mngon par mchod nas ci zhig bya zhe na don rnams
dbye phyir 'bad par bya zhes bya ba smos so// don dbye ba'i phyir ram/ don grol ba'i phyir
ram/ so sor dbye ba'i phyir bsgrim pha ra bya ba'i phyir zhes bya ba 'di ni rgyu'i don te/ don
rnam par dbye ba'i rgyur zhes bya ba'i tha tshig go/

論の語り手と作者とに帰依してからあなた（ヴァスバンドゥ）は何をなすのか、と
いうので、それ故、「私は意味を明らかにするため力を傾けよう」というのである。

〔すなわち〕努力を開始しよう〔であって〕、「事項を明らかにすること」〔とは〕
意味を解釈すること、あるいは別々に事分けすることである。そしてこれは目的を
意味する第七〔処格〕である。「意味を議論するため」という意味である。

4 論の綱要について

de la thog ma kho nar bstan bcos kyi
lus rnam par gzthag ste/

bstan bcos le'ur byas pa de la tshig
dang don mdor bsdu pa'am don mdor
bsdu pa don bdun po ni lus te sems
can gi khog pa la phyi nang skye
mched du 'dus pas lus zhes bya ba
bzhin du don bdun por bstan bcos kyi
tshig dang don gyi yan lag kun 'dus pas
na lus so/

そのうち、はじめに論の綱要が定立
される。

(tatrādītaḥ śāstra śarīraṃ vyavasthāpyate/
MAVBh 17.6)

〔「そのうち」とは〕その論頌のう
ち〔であり〕、ことばと意味の略説、
あるいは要約である7つの事項が綱
要であり、衆生の身体に対して内
〔処〕、外処からなるから「体」と
言われるように、7つの事項に論の
ことばと意味の部分がすべて集まっ
ているから「綱要」である¹²⁾。

12) MAVṬ P22a7-b2, D191b5-7.

de la thog ma kho nar bstan bcos kyi lus rnam par bzhag [gzthag D] ste zhes bya ba la/ de la
zhes bya ba ni bstan bcos kyi don rnam par 'byed pa de la [de la om. P] 'am/ bstan bcos la'o/
thog ma kho nar ces [zhes D] bya ba ni dang po kho nar ro// bstan bcos ni bshad par zad do/
de'i lus ni mdor bsdu pa'am/ don bsdu pa'am [pa'o D]/ gnas kyi [kyis P] don ni lus so//
dper na phyi dang nang gi skye mched kyi gnas ni khog pa ste/ lus shes bya ba de bzhin du/
don gang dag la gnas te/ bstan bcos la 'jug pa'i don de rnam ni de'i lus so// de dag kyang
don bdun po dag ste/ mtshan nyid la sogs pa'o [la sogs pa dag go D] / rnam par bzhag
[gzthag D] ces bya ba ni bcas pa ste [bcas par bya ste P]/ bshad ces bya ba'i tha tshig go/
「そのうち、はじめに論の綱要が定立される」という。「そのうち」とは、論の事
項を論議することの中で、あるいは論の中で、〔という意味〕である。

「はじめに」とは、最初にである。「論」とは解釈することである。

それ（論）の「綱要」とは、略説、要約、あるいは拠り所の意味で「骨組み」
（śarīra）である。たとえば、外〔処〕・内処にとっての所依なる身体（kāya）が
「骨組み」と言われるように、同様に、ある意味に依拠して、論が展開しているな
ら、それらの事項は、それ（論）の骨組みである。そして、それらが〔ここでは〕
「相」などの七つの事項なのである。

「定立される」とは、知らせることといわれ、表現することという意味である。

5 論の綱要偈

mtshan nyid sgrib pa de kho na//
gnyen po dag ni bsgom pa dang//
de yi gnas dang 'bras bu thob//
theg pa bla na myed pa'o//

lus su gzhas pa'i don bdun po 'di dag
go// da lus bdun po 'di bstan bcos
bstand pa'i skabs kyis so sor ngo shes
shing go na mdor bsdu pa 'dir bstan
bcos mi dgos zhe na rta dkyus bstan pa
bzhin du slob mas don dang tshig zin
pa dang spro bar bya ba'i phyir lus dang
por bstan do/

相と障と真実と対治の修習とその段階と、果を得ることとこの上ない乗り物である。

(lakṣaṇam hy āvṛtiḥ tattvaṃ pratipakṣasya
bhāvanā/
tatrāvasthā phalaprāptir yānānuttaryam eva
ca// MAVBh 17.7-8)

綱要における定立の事項がこれら7つである。今、この7つの綱要が論に示される段階であることによって、〔それらを〕個々に認識するだけで〔綱要が知られるのに〕、略説をここで示すことがなぜ必要なのか。馬が走る際に〔大地を〕見る如く、弟子によって意味とことばが把握され、〔それが〕進展するために、「綱要」が初めに示されるのである。¹³⁾

13) MAVṬ P22b2-4, D191b7-192a2.

bstan bcos khong du chud pa nyid kyī de'i lus shes par mi 'gyur ram/ de bas na thog ma de rnam par bzhag [gzhas D] pa ni don med do// slob ma rnam la phan gdags pa'i phyir don med pa ma yin no// slob mas don khong du chud na rgyas par brjod kyang bde blag tu khong du chud par 'gyur te/ dkyus kyis bstan pa'i rta thags thogs med par rgyug pa bzhin te/ gzhan du ma yin no// [// om. D, P]

論を理解することによってのみ、それ（論）の綱要が知られるのではないのか。だから最初にそれを定立させることは無意味である。〔たとえば、〕弟子には助けとなるためのものだから、無意味とならない。というのは、事項を理解している弟子は、詳細に説かれていることを容易に了悟するからである。大地を見た馬が恐れなく走る如く。そうでない場合は〔そうなら〕ない。

zhes bya ba don bdun pa 'di dag
bstan bcos 'di las 'chad do/

というこれら七つの事項がこの論に
詳説される。

(iti ete saptārthā hy asmin śāstre upadi-
śyante/ MAVBh 17.9)

le'ur byas pa

[これは] 章についてである。

6.0 7つの事項

'di lta ste/

つまり

(yad uta / MAVBh 17.9)

don rtogs par byed pa'i tshig gi phrad
yin no/

その意味を理解するための不変化辞
である。¹⁴⁾

6.1 相

mtshan nyid dang/

相と

(lakṣaṇam MAVBh 17.10)

don mtshon pa'am shes par byed pas
mtshan nyid de de yang kun nas nyon
mongs pa'i mtshan nyid dgu dang/
rnam par byang ba'i mtshan nyid lnga

対象を定義する、または知らせるか
ら相である。それはまた、雑染相の
9つと、清浄相の5つとで、14であ
る。¹⁵⁾

14) MAVṬ P22b6, D192a4.

'di lta ste zhes bya ba ni/ 'di don khong du chud par byed pa'i tshig gi phrad do/
「つまり」とは、その意味を理解するための不変化辞である。

15) MAVṬ P22b7-23a4, D192a4-b1.

mtshan nyid ces bya ba ni/ 'dis mtshon par byed pas mchan nyid do// de yang rnam pa gnyis
te/ kun nas nyon mongs pa'i ma tshan nyid dang/ rnam par byang ba'i mtshan nyid do// de la
kun nas nyon mongs pa'i mtshan nyid ni rnam pa dgu ste/ yang dag ma yin kun rtog yod ces

ste bcu bzhi[/]

6.2 障

sgrib pa dang/

障と

(āvaraṇam MAVBh 17.10)

dge ba skye ba'i bgegs byed pas sgrib
pa ste de yang lda bcu rtsa gsum mo[/]

善が生起することをさまたげるから
「障」である。それはまた 53 種で
ある。¹⁶⁾

bya ba nas bzung ste/ rnam bdun yang dag mi rtog las zhes bya ba'i bar du'o// lhag ma ni
[lhag ma'i P] rnam par byang ba'i mtshan nyid du bstan to//
gal te 'dis mtshon par byed pas mtshan nyid ces bya na/ de lta na ni mtshan nyid kun nas
nyon mongs pa dang/ rnam par byang ba dang tha dad par 'gyur ro zhe na/ de ni de lta ma
yin te dngos po rnam rang bzhin nyid mtshan nyid de/ dper na sa'i khams kyī mtshan nyid
ni sra ba ste/ sra ba nyid las sa'i khams gud na med pa lta bu'o//
yang na des mtshon par bya bas mtshan nyid de/ de ltar kun nas nyon mongs pa dang/ rnam
par byang ba yang kun nas nyon mongs pa dang/ rnam par byang ba'i bdag nyid kyis
mtshon par bya bas mtshon nyid du 'gyur ro// yang na kun nas nyon mongs pa dang rnam
par byang ba gnyis las mtshan nyid rnam pa gnyis te/ rang gi mtshan nyid dang spyi'i mt-
shan nyid do//

「相」とはそれによって表象されるから相である。またそれは雑染相と清浄相の 2 種である。その中、雑染相は 9 種である。「虚妄分別はある」をはじめに、「七種は虚妄分別から」に至るまでである。残りの半分によって清浄相が説かれる。

もしそれによって表象されるから相であるとそうに言うなら、相には雑染と清浄の違いがあることになる、といえ、それはそうならない。というのは、諸存在の自性のみが相だからである。たとえば、地界は堅い相を持つ。しかし堅さを持つものとは別に地界が存在することはないと説かれるように。

あるいはそれが表象されるから相である。そうであれば雑染と清浄は雑染・清浄を本体とするという点で、表象されるから相である。あるいは雑染と清浄の 2 種の相には、2 つの相がある。自相と共相である。

16) MAVṬ P23a4-5, D192b1-2.

sgrib pa zhes bya ba ni [ba'i ni P] dge ba'i chos mams la sgrib par byed pa'am/ 'dis dge ba'i
chos mams bsgrib [sgribs P] pas sgrib pa ste/ skye ba la 'gegs byed pa'i phyir sgrib pa'o// de
yang lda bcu rtsa gsum mo//

6.3 真実

de kho na dang/

真実と

(tatvam MAVBh 17.10)

phyin ci ma log pa de kho na ste yang
bcu'o[/]

転倒のない真実である。〔それは〕
また 10¹⁷⁾ ある。

6.4 対治修習

gnyen po bsgom pa dang/

対治の修習と

(pratipakṣasya bhāvanā MAVBh 17.10)

myi mthun pa'i phyogs spong pa'i
gnyen po ste byang chub kyi phyogs
sum cu rtsa bdun goms par byed pa'o /

対治を断じる一派が〔対治〕である。
三十七菩提分〔法〕の修練である。¹⁸⁾

6.5 対治修習の位

gnyen po bsgom pa de nyid kyi gnas

その同じ対治の修習における段階と

「障」とは、善法を覆うから、あるいはそれによって諸善法が覆われる〔から「障害」である〕。〔善法の〕生起に対しまたげとなるから「障害」である。さらにそれは 53 種である。

17) MAVṬ P23a5-6, D192b2.

de kho na zhes bya ba ni 'di nyid de yin pas de'o// de'i dngos po ni de kho na ste/ phyin ci ma log ces bya ba'i tha tshig go de yang mam pa bcu'o//

「真実」とは、それ (tad)こそ、これ (idam) であることが tat である。その抽象名詞 (bhāva) が真実 (tattva) であり、転倒がないという意味である。またそれは 10 である。

18) MAVṬ P23a6, D192b2-3.

mi mthun pa'i phyogs spangs pa'i phyir/ phyogs ni gnyen po ste de ni lam mo// de goms par bya ba ni bsgom pa'o//

対治を断じるため、一派 (pakṣa) は「対治」(pratipakṣa) であり、それは道である。それを修練することが「修習」である。

lang/

(tasyām eva ca pratipakṣabhāvanāyām
avasthā, MAVBh 17.10-11)

e nyid bsgoms pas je che je cher
hyad par du gyurd pa'i rgyud snga ma
nga ma ni gnas ste de yang rigs kyi
gnas dang sems bskyed pa'i gnas la
stsogs [read *la sogs*] pa bco brgyad do/

それを修習することにより、だんだ
んと特殊化した、前々の相続が段階
である。それはまた、種姓の段階と
心生起の段階などの18種である¹⁹⁾。

i.6 得果

bras bu thob pa dang/

得果と

(phalaprāptiś ca, MAVBh 17.11)

nob pa ni rnyed pa ste de yang rnam
par smyin pa'i 'bras bu la stsogs pa bco
nga yin[/]

得とは獲得である。さらにそれは異
熟果などの15種である²⁰⁾。

i.7 無上乘

heg pa bla na myed pa ste/

無上乘と

(yānānuttaryaṅ ca, MAVBh 17.11 — 12)

19) 以下に示すスティラマティ釈では、19種としている。

MAVṬ P23a6-7, D192b3.

gnas skabs ni de nyid rgyun gyis skyed ba'i khyad par ro// de yang rnam pa bco dgu ste/ rigs
kyi gnas la sogs pa'o//

「段階」とは、同じそれ（修習）の相続によって生じる差異である。さらにそれら
は「種姓の段階」などの19種である。

20) MAVṬ P23a7, D192b3.

'bras bu thob pa ni 'bras bu rnyed pa'o// de yang rnam pa bco lda ste/ rnam par smin pa'i
'bras bu la sogs pa'o//

結果の獲得が得果である。さらにそれは異熟果などの15種である。

'di'i gong na khyad par can gzhan myed
pas na myed pa ste de yang sgrub
[Ms^{pc}. sgrub, Ms^{ac}. bsgrub] pa bla na
myed pa dang dmyigs pa bla na myed
pa dang yang dag par 'grub pa bla na
myed pa ste gsum mo/

7 7つの事項

don bdun pa'o/

bdun pa zhes bya ba smos pa ni nges pa
dang go rims kyi don bstan ste/ de yang
nges pa ni myi mang myi nyung ste[/]
bdun du nges pa'o/ go rims kyi don ni
mos pa spyod pa des dang por mtshan
nyid la mkhas par bya'o/ de'i 'og du
gang la kang gang sgrib pa shes par bya
ba yin pas sgrib pa bstand sto/ de'i 'og
du sgrib pa spang ba'i [rgyu/]

それより上で、勝れ、他にないから
「無上」である。それはまた修行無
上、所縁無上、修証無上である。²¹⁾

7つの事項である。

(saptamo 'rthah, MAVBh 17.12)

「7つ」という語は、[数の]規定
と順序を示している。また、それを
規定するとは、過不足のない、つま
り7つということである。順序の意
味とは、その信解行〔地〕によって
最初に相に通達すべきということ
である。その後で何かがあるところ
でさまたげていると知るべきなので、
障害が示される。その後でさまたげ
を捨てる原因〔が示されるのである〕²²⁾。

21) MAVT P23a7-8, D192b3-4.

theg pa bla na med pa zhes bya ba ni 'dis 'gro bas theg pa ste/ de ni theg pa yang yin la bla
na med pa yang yin pas theg pa bla na med pa'o// de yang rnam pa gsum ste/ bsgrub pa bla
na med pa la sogs pa'o//

「無上乘」とは、それによって行く (yāti) から、「乗」(yāna) また、それは「乗り物」であり、この上ないものだから「無上乘」である。さらにそれは、修行の無上であることなどの三種（修行無上、所縁無上、修証無上）である。

22) MAVT P23a8-b1, D192b4-5.

don bdun pa zhes bya ba ni des pa'i don dang go rims kyi don du smos pa ste/ don 'di rnam

注

- (1) タボ寺発見のチベット語文献については、C. A. Scherrer-Schaub *Towards a methodology for the study of old Tibetan manuscripts: Dunhuang*, (Tabo Studies II, Manuscripts, Texts, Inscriptions, And the Arts. Roma: ISIAO. 1999) を参照。氏はタボ寺発見写本のおおよその書写年代を提示している。当該文献と近似している写本の書写年代に従うならば、950年から1190年の間に書写された可能性がある。

略号と参考文献

D	sDe dge edition of the Tibetan Tripiṭaka
ins.	insert(s)
om.	omitted in
Ms ^{ac} .	Manuscript ante correctentum
Ms ^{pc} .	Manuscript post correctentum
P	Peking edition of the Tibetan Tripiṭaka
MAVBh	Madhyāntavibhāgabhāṣya, edited by Gadjin Nagao, Madhyāntavibhāgabhāṣya, 鈴木学術財団, 1964.
MAVṬ	Madhyāntavibhāgaṭikā, sDe dge edition, No. 4032. Peking edition, No. 5534.

謝 辞

チベット写本の歴史的地理的情報を教示して頂いた、大谷大学・三宅伸一郎准教授に感謝申し上げます。また駒澤大学・加納和雄講師には、写本の読み方や翻訳の際の注意点を真摯にご指導して頂きました。御礼申し上げます。

(平成25年度科学研究費補助金若手研究 (B), 25770018 (代表 松下俊英) の研究成果の一部)

¹dir bshad kyi de las gzhan ma yin no//

「7つの事項」とは、規定した事項と順序の事項を述べている。これだけの事項がここに表示され、これ以外〔の事項〕はないということである。

※リポジトリ非公開

1verso

※リポジトリ非公開

2recto

※リポジトリ非公開

※リポジトリ非公開